

【第5回赤磐市まちづくり審議会】第2次赤磐市総合計画(基本計画案)に関する意見(要旨)

日時:平成27年7月31日(金)9:30~11:30

場所:赤磐市立中央図書館 多目的ホール

審議会委員意見

基本計画全体に関わる意見

1	「わたしたち(市民)ができること」欄について、「市民」にしてしまうと、人ごとになりやすい感があると思うので、区としてやること、NPO団体がやること、PTA保護者がやることなど、私たち自身がやらないといけないということが認識できるような書き方にしてはどうか。
2	「民間活力の活用」、「官から民」へ、「民間でできることは民間で」、「民間でできないことは行政で」といった、そのあたりのことをもう少し具体的に、この基本計画に書くだけでなく、全体を通して検討していただきたい。
3	合計特殊出生率のアップ対策について、住みやすいまちになれば若者も来て(住み)、子どもも増えるのかもしれないが、この辺の施策が薄い気がする。たとえば、赤磐市独自の第3子への支援を行うとか、そういったことで考えられることがあるのではないか。
4	子どもの貧困問題にも関係してくるが、 ①「本当に困っている人、自分の努力ではどうにもならない人」はしっかりと行政が支援しなければならないと思う。 ②何が本当の福祉かということを考えてときに、所得制限や一部負担(受益者負担の適正化)ということも検討していく必要があるのではないか。

「企業誘致による安定的で良質な雇用創出プログラム」に関する意見

5	最先端の世界に誇れる企業が赤磐市に来れば、市が活性化し、賑わいが増すと思う。
6	重点施策に書いている「企業誘致促進アドバイザー制度の創設」など、企業の情報収集や企業へのアプローチを行うことは必要なので進めてほしいが、企業が立地を検討する際は、企業自身が適地を探して動くのがほとんどになるので、企業が調査をしたときに赤磐市の情報が見つかるような、例えば、ゼネコンや金融機関に企業から引き合いがあったときに、赤磐市をPRしてもらえるような体制をとっておくのも有効ではないかと思う。
7	目標指標「新たな企業用地の確保 10ha」について、特に大企業が追加投資するときは、現在ある工場・施設の隣に新たな工場・施設をつくることをまず最優先にするので、用地の選定に当たっては、拡張性のあるところを選定したほうがよい。
8	目標指標「新規立地企業の雇用創出数 150人」について、新規企業立地件数の目標が5件なので、1件当たりの雇用創出が30人となるが、もう少し高い目標を掲げてはどうか。
9	企業誘致希望地区の調査を実施してはどうか(自治区で区有林を所有しているか等)
10	「積極的な企業誘致の展開」のところに、企業用地の情報提供についても記載してはどうか。

「商工業・観光振興による賑わいと活力創出プログラム」に関する意見	
11	赤磐市には倉敷のような伝統的な町並みはないと認識しているが、赤磐市には古代の資源があり、古代ミステリーツアーとか、古代の史跡等にはファンが多くいるので、こういった資源の活用が可能だと思う。
12	今年の永瀬清子の里づくり事業では、谷川俊太郎さんによる講演が行われ、永瀬清子は日本を代表する現代詩人であり、世界を代表するフェミニストであると言われていたが、現在、永瀬清子の生家が観光名所となっていない。 生家の保存・整備をすることで、生家をかすめてそこから赤磐をめぐるという観光の拠点になるのではないかと思う。
13	スポーツの面も観光の資源として役立つのではないかと思うので、既存のスポーツ施設の情報を市外に向けてアピールすれば、滞在型の観光として有効利用できるのではないか。
14	「観光受入体制の整備」について、滞在型観光を進めるにあたり、「おもてなし家庭」を募集してはどうか。
15	県内土木技術向上と振興の強化を目的として、土木技術センター研修会場を設置
「強い農業の確立プログラム」に関する意見	
16	是里でぶどうづくりをされている方が、赤坂を通過していったら1時間以上かかる、アクセスが良くないということを言われていた。赤坂へバイパスをつくるということを考えられているのでしょうか、美作岡山とどっちに重点を置かれているのか。
17	学校給食の地産地消は今後進めていく必要があると思うが、状況はどうなっているのか。
18	「農産物の高付加価値化」について、桃、ぶどう等の樹木や水稻のオーナー制度を確立し、企業等と契約して安定して高値で販売できる施策を展開してはどうか。
19	「農産物の高付加価値化」について、雄町米の注文が全国から相次いでいるにもかかわらず、品物がないため断っているのが現状である。「今こそ関係者一丸となって栽培の拡大を図るよう努力する。」といった文言の追加をしてはどうか。
20	「担い手への農地集積と生産基盤の整備」について、 ・残土処理場の利用 ・ハウス栽培による水耕栽培(葉物野菜中心) ・安全安心を売り物で栽培ができれば需要も可
「安心して家庭を築ける環境創出プログラム」に関する意見	
21	クラウドワークス(在宅就労)とあるが、これはスキルを持っている人に限られるのではないか。赤磐市としてどういうことを想定しているのか。

「安心して出産・子育てができる環境創出プログラム」に関する意見	
22	4人目の子どもが生まれたら100万円だとか、子育て支援でバラマキをしている市もあるが、お金を使わなくてもできる「母親が心を寄せられる相談員制度」とか、そういったものをつくっていくべきではないか。
23	学童保育では、学校の宿題をみんなでその場でできる。素晴らしいことだとは思いますが、学童保育に行くことで、親も楽、子どもも楽な状況になっており、親と子の関わりが薄れてきているのではないかと。親子の触れ合う時間を増やすことで、親育ち、子育てができるのではないかと。
24	「出産・子育ての不安に対する情報・サービス提供体制の整備」について、 ①1.5歳児、3歳児健診といった早期段階で、発達障害スクリーニングや専門家支援を行い、障害時の発見だけで終わらない早期支援体制の整備。 ②障害時の発達段階に応じた支援システムを作り、周辺の学校機関と十分情報を共有し幼稚園から就学、就職まで一貫したアプローチを提供できる専門機関や専門職を配置し、障害児・両親等が気軽に相談が出来たり悩みを話すことができ、支援へとつなげられる体制づくり。
25	「子育てサービス・保育サービスの充実」について、「認定こども園」の用語の説明を加えてはどうか。 ※幼稚園と保育所の良さを併せ持つ教育と保育を一体的に行う施設。
26	「地域ぐるみの子育て支援(地域の子は地域で育てる)」について、高齢者は人生経験豊かで子育ても終えているので[子育て応援塾](仮称)等を各地へ作り自らの生きがい活動と合わせ活躍していただいているかどうか。
27	「地域ぐるみの子育て支援(地域の子は地域で育てる)」について、「母子と地域との交流の促進…」→母子だけでなく「母子・父子」としてはどうか
「子どもが健やかに育つ教育環境プログラム」に関する意見	
28	「小中学校教育の充実(確かな学力の定着)」のところで、タブレットやマイクロステップドリルということも大切だと思うが、「土日に図書館を利用する」、「家族読書」など本とのふれあいの部分で大事ではないかと思う。 家庭での読書を進めるようなことを書いていただきたいと思う。
29	学力の定着というところの感覚をどう持つか、全国のアンケートによると、学力が低いほどスマホの利用(率?時間?)が高いことがはっきりと言われている。スマホとかメディア接触が多いほど学力が必ずおちるということはデータで出ている。今後はメディア教育が重要になってくると思うので、ああしたいこうしたいという計画も結構だが、今子供たちの学力や成長発達を阻んでいる環境をどうするかという計画も立てていかなければいけない。そのことが抜けている。
30	ふるさと教育を徹底的にやらなければならないと思う。もともと住んでいる人と新しく入ってきて住んでいる人の両方があって市ができていと思うが、ふるさとを子どもたちにどうやって認識させるか。副読本などの取り組みも徹底して、やっていくべきではないかと思う。
31	親の経済力による学力格差の問題について、相対的に貧困率の高いひとり親家庭、中でも母子家庭に手厚い支援があることが結果的に子どもの学力をあげていくので、この辺りのことを盛り込んでいただきたい。
32	保、幼、小、中だけでなく、高校までが充実していたら、もっと地元で根付く子どもたちの育成ができるのではないかと。人口減少で保、幼、小、中と通学通園等も時間がかかる地区もある。高校も1時間以上かかる子どもたちも少なくない。

「移住・定住が進むまち創出プログラム」に関する意見	
33	移住してくる方は、「定年退職後」、「子どもが小学校に入る時期に合わせて」などいろいろなパターンがあると思うが、何が一番大切かという環境整備が大切だと思う。
「支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム」に関する意見	
34	今後赤磐市は小規模多機能自治を目指しているのか
35	資料2の【支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム】の目標指標がピンとこない、【高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム】についても同様。 例えば、地域支えあいのグループ(※)を5年間で地域に10や20つくるなど、そういう目標指標をつくってみてはどうか。 (※)保育、買い物支援、送り迎え、高齢者の見守りなどをアクティブシニアや子育てが終わった女性の方などの活用により実施する。
36	行政施策の根幹には、「人間尊重」、「人権尊重」、「市民の命を守る」といった、人権尊重社会の形成が必要だと思う。 このことが、総合計画の一番最初のところにある「はじめに」の部分にないので、入れるように検討してほしい。
「高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム」に関する意見	
37	高齢者が今までの経験や技術を生かして、小学生や中学生に何か教えることのできる環境、例えば、理系の仕事をしてこられた方は、算数を教えるなど、そういったシステムをつくれれば良いと思う。
38	高齢者のボランティア活動を行政がサポートし、「有償ボランティア」化することで、高齢者の生きがいづくり、社会参画につながるのではないかと。
39	「生涯を通して健やかに暮らせる生活の質の向上推進」について、市民カード等とリンクし、自分の体力・能力状態に応じたパワーリハが受けられ、住民同士が誘い合って通うことのできる場所や「65歳大学」のような生きがいを皆で見つけられ、地域に持って帰れる健康増進プログラムを行える場などを整備することで、生活習慣病や要介護を受ける原因疾患の脳血管疾患、転倒等を防ぎ、健康維持・増進を促進できる事業の配備。 定年退職後の趣味づくりや無気力症状、認知病予防事業を行える体制整備。
40	高齢者の生きがい創出として、非農家に対して遊休地を提供してもらい、農産物を栽培することでモノ作りの楽しみを味わいながらも近所へ提供したり、朝市や青空市へも販売し収入を得る体験もする →「遊休地を活用した生きがい創出」施策の追加